

事業レポート

父親と子どもの生活の自立を促し 女性の子育てと仕事の両立を応援

「パパと作ろう！家族のためのお昼ごはん」（全国女性会館協議会、日本テトラパック株式会社共催）を 7 月 25 日（土）、開催しました。

この事業は、働く女性の家事・育児と仕事の両立を支援するために、日本テトラパック株式会社と特定非営利活動法人全国女性会館協議会が全国各地で展開しているプログラム。父子 12 組が参加し、講師の滝村雅晴さん（パパ料理研究家）に、手作りピザやサラダなど、4 品の料理を教わりました。

粉と水を混ぜて、こねて…。生地から作るピザに子どもたちは興味津々！ 傍らでパパたちは子どものサポートをしたり、他の料理の準備を進めたりと大忙しです。しかし、次第に同じグループのパパ同士と協力体制が生まれ、各自役割分担をしながら無事、4 品が完成しました。ハート形や顔に見立てて具材をトッピングしたものなど、思い思いのピザが出来上がり、大満足の子どもたち。パパたちからは「子どもや時間を気にしながら料理を作



感謝の気持ちを込めて、みんなで「いただきます！」

■パパと作ろう！ 家族のためのお昼ごはん

◎日時：7 月 25 日（土）10 時～13 時
◎講師：滝村雅晴氏（パパ料理研究家）
◎定員：12 組
◎全国女性会館協議会、日本テトラパック（株）共催（働く母親を応援する男性・子どもの生活自立支援事業）

ることの大変さが分かり、改めて妻へ感謝の心を持ちました」「子どもの喜ぶ顔が見られて良かった」など、家事・育児参画に関心が高まったという声が多数寄せられました。

はあもにいでは、これからも男性や子どもの生活自立支援を目指す事業を展開していきます。

幼児室より



作ってみよう

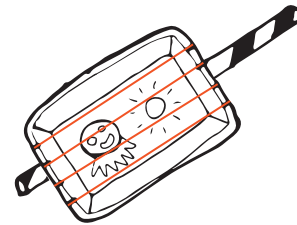
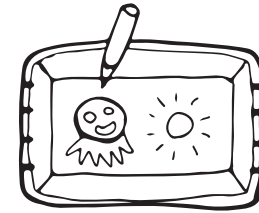
簡単！ 手作り「ワゴムギター」

用意するもの

- ・発泡トレイ
- ・サインペン
- ・ビニールテープ
- ・ワゴム（太さいろいろ）
- ・新聞紙

【作り方】

- ①トレイに色ペンで絵を描く。
- ②トレイの両端に切り込みを入れ、その部分にいろいろなワゴムを張る。



- ③新聞紙をまらめてテープを巻き、ギターの持ち手の部分を作る。

- ④トレイに③を貼り付け、ギターの出来上がり。

親子で参加！

よんで🌞よんでの会

はあもにい 1 階幼児室で毎月開催している「よんでよんでの会」。飛び入り参加大歓迎！館内の情報資料室で人気の絵本の読み聞かせをはじめ、楽しい手遊びや紙芝居もありますよ。

親子で楽しく参加できます。ぜひ気軽にお越しください。



日 時：9 月 1 日（火） 11:00～（40 分程度）
内 容：手遊び・紙芝居・読み聞かせ・触れ合い遊びなど
場 所：1 階はあもにい幼児室
参加費：無料
定 員：保護者と未就学児のお子さん 20 人程度

情報資料室より おススメの本

今月のテーマ：男女共同参画

防災力アップ！家族で備えよう



防災ピクニックが子どもを守る！災害時に役立つサバイバル術を楽しく学ぶ
MAMA-PLUG / 編・著 (KADOKAWA)

特に小さな子どもがいる家庭向けに、楽しく防災を学ぶ方法を提案している本書。防災には「自分の身は自分で守る」という意識が重要だと言います。一つは危険力所の確認をしながらウォーキングし、地図作成を行うことが有効です。また非常食や携帯トイレなどの防災グッズを試す場として、ピクニックを紹介しています。野外での食事や活動によって、思考力やコミュニケーション力が養え、生きる力を鍛えられるからです。写真とイラストが満載で誰でも実行できそうな所が魅力です。

防災には、男女双方の視点が必要であることも触れてあり、さまざまなニーズに合わせて備えが必要だと気付かせてくれる一冊です。

9 月 20 日、はあもにいで防災について学ぶ「はあもにい防災調査隊」を開催します。詳しくは表面をご確認ください。



館長室より

8 月の中旬、仙台市～山形県朝日町を訪れました。仙台では子育て支援関連の施設や、コワーキングスペースなどを見学。山形県朝日町では、『あさひ町ブランド大学』での講演の機会を頂きました。りんごとワインの里として知られる朝日町は人口 7000 人ほどの小さな町。ここで町のブランド化を進めているのは、今年 3 月に当館で行った『ミモザフェスティバル』で、記念講演をお願いした村尾隆介氏。村尾さんとのご縁が、今回の私の講演に繋がりました。

実は観光も兼ねて講演の前日に同町に入り、カフェや観光案内所に立ち寄って町の状況をヒアリングした上で講演に臨んだ私。以前から関心のあった、3 世代同居率が全国一位、女性の就業率も高い山形県の実状について、現場の声を少しだけ聞くことができました。「同居は当たり前のこ

と…」という家や家族を重んじる暮らしと豊かな自然。急速な社会の変化の中で、残すべきものがここにはある…と、住民の方の笑顔と、活性化に向けた真摯な姿勢を見ながら思ったことでした。そして本当に短時間での印象ですが、ここに女性の力がさらに発揮されることで、活性化に拍車がかかると感じました。役場の政策推進課課長から頂いた名刺には、『見学者が絶えない日本でいちばんかっこいい田舎町になる！』という朝日町役場のブランドビジョンが明記されていました。気が付いたら私も、朝日町のファンに…。朝日町で学び得たことを早速、はあもにいでも活かしていきたいと思います。

館長 藤井 宥貴子

